



学校外の子供の多様な学びに関する

調査研究事業

令和7年度 事例集

参加ラボ

- ・慶應義塾大学
- ・帝京大学
- ・東京家政大学
- ・日本体育大学
- ・明治学院大学



はじめに	P.2	東京家政大学ラボ	P.29
1 調査研究の概要	P.3~4	(1) 調査研究の概要	P.30~32
2 事例の読み方	P.5~9	(2) 活動内容から見た事例の分析	P.33~34
3 事例の紹介	P.10	(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析	P.35
慶應義塾大学ラボ	P.11	(4) フリースクール等での実践	P.36
(1) 調査研究の概要	P.12~14	(5) 調査研究活動の関係者の声	P.37
(2) 活動内容から見た事例の分析	P.15~16	日本体育大学ラボ	P.38
(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析	P.17	(1) 調査研究の概要	P.39~41
(4) フリースクール等での実践	P.18	(2) 活動内容から見た事例の分析	P.42~43
(5) 調査研究活動の関係者の声	P.19	(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析	P.44
帝京大学ラボ	P.20	(4) フリースクール等での実践	P.45
(1) 調査研究の概要	P.21~23	(5) 調査研究活動の関係者の声	P.46
(2) 活動内容から見た事例の分析	P.24~25	明治学院大学ラボ	P.47
(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析	P.26	(1) 調査研究の概要	P.48~50
(4) フリースクール等での実践	P.27	(2) 活動内容から見た事例の分析	P.51~52
(5) 調査研究活動の関係者の声	P.28	(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析	P.53
		(4) フリースクール等での実践	P.54
		(5) 調査研究活動の関係者の声	P.55
		参加団体一覧	P.56



【本事業の実施主体】東京都子供政策連携室企画調整部
 【問合せ窓口(令和7年度)】アデコ株式会社(本事業受託会社) 電話番号 050-4560-7557(受付時間:平日9時~17時30分)
 メールアドレス ade.jp.kodomomanabi@jp.adecco.com

※表現はラボからの実施報告書をもとに記載しています。

はじめに

東京都では「学校外の子供の多様な学びに関する調査研究事業」において、フリースクール等の学校外の学びの場・居場所で学ぶ子供一人ひとりに寄り添った学びを提供することを目的に、子供の興味関心を引き出す支援方法等について調査研究を実施しました。

本事例集は各ラボの調査研究をもとに、「活動内容から見た事例の分析」、「子供の特徴・特性から見た事例の分析」という2つの角度から東京都及びアデコ株式会社が作成しました。

フリースクール等の現場で活用することで、新たな取り組みのヒントとなる視点を見つけ、役立てていただくための具体的な事例を紹介しています。

子供一人ひとりに対する支援の一助として、ご活用をいただけますと幸いです。

活動内容や環境等、より詳細な内容を確認されたい場合は附属資料もご参照ください。



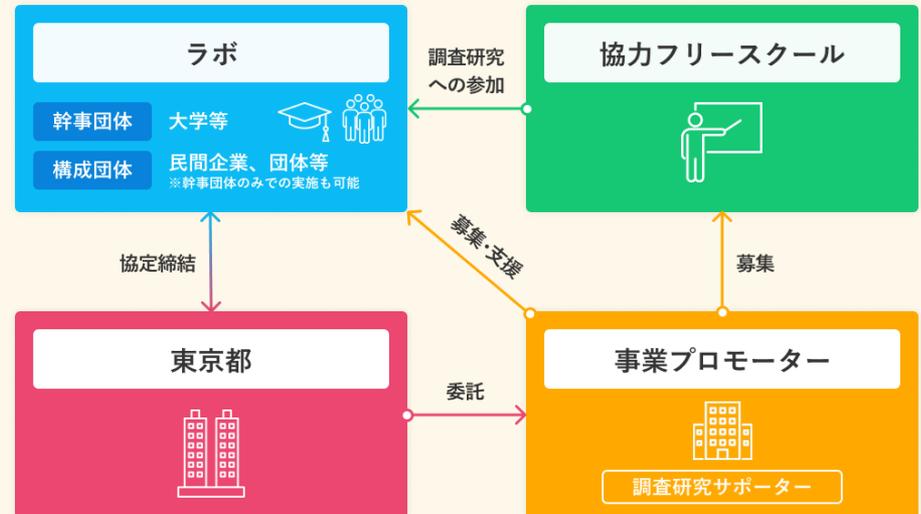
調査研究の概要

事業目的

- 学齢期の子供を取り巻く課題が多様化する中で、フリースクール等の学校外の多様な学びの場・居場所の重要性が高まっている。
- 本事業では、学校外の場で学ぶ子供に寄り添った学びを提供することを目的に、子供一人ひとりの興味関心を引き出す支援方法等についての調査研究を実施。

実施スキーム

- 調査研究は、ラボ(大学等)が行う様々な活動に、協力フリースクールの子供が参加する形式で実施。
- ラボを公募・選定するとともに、参加希望のあったフリースクール等とマッチング。
- 研究成果は、事例集として取りまとめ、フリースクール等や不登校の子供を支援する団体等に提供する。

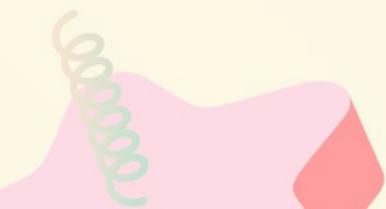




学校外の子供の多様な学びに関する

調査研究事業

2 事例の読み方



事例の読み方 全般①

事例集は5つのラボごとに以下の構成となっています。 ※ラボにより、構成が異なる場合がございます。

調査研究の概要

- 各ラボの調査研究活動がどのように行われたか紹介するページとなっております。
記載項目: 調査研究活動のテーマ、検証内容、活動概要(対象、実施時期・場所、内容等)

活動内容から見た事例の分析

- 活動内容を出発点として、実践にあたってのポイントや期待できる効果を分析・紹介しています。同じ活動の中でそれぞれの子供の特徴・特性に応じた支援方法を確認できます。

子供の特徴・特性から見た事例の分析

- 子供の特徴・特性を出発点として、実践にあたってのポイントや期待できる効果を分析・紹介しています。複数の場面で一人の子供がどのような変容を見せたか確認できます。

事例の読み方 全般②

フリースクール等での実践

- フリースクール等が研究成果を日常の活動の中で活用するためのポイントを紹介しています。円滑に準備を行う方法や効果的に実践するための留意点を確認できます。
- 紹介するポイントは調査研究活動と同じ内容の再現ではなく、フリースクール等の活動場所の地域性など、個別の状況に合わせた実践のための内容になっています。

調査研究活動の関係者の声

- 参加した子供、協力フリースクール、ラボの感想等を紹介しています。子供が活動を通して成長できた面や協力フリースクールが取り入れたいと感じた内容などを確認できます。



事例の読み方 活動内容から見た事例の分析

見本(慶應義塾大学ラボ)

事例を探す際に参考となるキーワードを記載しています。

(2)活動内容から見た事例の分析①

参考タグ

- 視点拡張
- 環境構成
- 伴走支援
- 没入支援
- 感覚配慮
- 興味起点
- 制作活動
- 心理的安全性

タイトル 桑の木が**生糸にへーんしん!**? (第4回)

活動内容

- 桑から生糸が得られるまでの生物学的過程と、**人の工夫・技術について学ぶ。**
- 植物の構造や生育の仕組みを理解し、桑や農作物の成長を通して**生命の循環と人の営みのつながり**を考える。
- 繭から**糸を取り出す**体験活動を行う。



事業で行った活動について記載しています。

全体支援
(環境設定)

糸繰りを行う作業スペースに加え、昔の糸繰り機械や繭が展示されたスペース、絹糸製品が複数種類置かれたスペース、繭をお湯でふやかす事前準備を行うスペースなど、工程ごとに空間をゾーニングした。また、事前に2~5名でグループ分けを行い、**各グループにラボメンバーおよびコミュニケーター**を配置した。ラボメンバー以外の大人は室内の隅で見守り、全体を通して児童・生徒を支援した。

子供の
特徴・特性

Aさん

- 中学生。集団内での同調や無理な関係調整に強い疲労感を抱きやすい。
- テンションの高い人や距離の近い関わりに苦手意識がある。
- 音に対して、やや繊細**な傾向がある。

Bさん

- 小学校高学年。**昆虫・生物・自然物に対する関心が強い**。着席して一斉に話を聞くより、身体を動かしながら探索・創作する関わり方を好む。
- 関心の薄い活動では**参加形態を自分で調整**する傾向がある。

子供の
様子・変化

活動を通して...

- 制作や身体作業の場面では、複数人の会話が行われる環境下においても**周囲に左右されず、自身の作業に深く集中し続ける姿**が確認された。
- 過去の体験と現在の作業内容を自分で確認しながら取り組む様子が見られた。

活動を通して...

- 昆虫研究者の話**になると、集中力が明らかに高まり、熱心に話を聞いていた。自身が持参していた蚕のぬいぐるみに注目が集まり、それを聞いた説明が行われた際には、非常に嬉しそうなお姿が見られた。
- 糸繰りの際、蚕が繭の中で死んでいることに抵抗を示し、当初は参加しなかったが、**周囲の様子を見て途中から参加し、次第に没入**していった。

支援
ポイント

本人のペースに委ねて反応を強要せず、**適切な距離を保ちながら必要時のみ補助し、制作過程や集中のあり方を評価・修正しない姿勢**で関わることで、学びの質が上がっていく状態を支えていた。

子供の**興味や身体感覚を起点とする行為を否定せず、支援者が行為と場をつなぐ媒介者として伴走的に関わり続けた**ことが、安心感の維持につながっていた。

活動内容や環境等、より詳細な内容を確認されたい場合は**付属資料**もご参照ください。

15

子供の性格や特徴・特性について記載しています。

具体的な子供の様子と変化について記載しています。

具体的な様子・変化から導かれる支援のポイントを記載しています。

事例の読み方 子供の特徴・特性から見た事例の分析

見本(慶應義塾大学ラボ)

(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析

子供の性格や
特性について
記載しています。

事例
概要

安心感を土台とした自由度の高い環境設計により、
子供一人ひとりの興味関心を引き出した事例(Eさん)



子供
の
特
徴
・
特
性

- ・ 中学生。自分の気持ちを言葉で表現することが苦手で、繊細な感受性を持つ。
- ・ 特定の相手との関係に安心感を見出しやすく、関係に依存する傾向が見られる。
- ・ 集団のペースや周囲に合わせることに強いストレスを感じる。

支援場面と、
支援による子供の
様子・変化について
記載しています。

支援
場面

蚕から糸へを体験する探究活動(第4回)

- ・ 子供たちは個別に用意された道具で自分のペースで糸織りを体験しつつ、工程ごとに分けられた空間を自由に行き来しながら製作の流れ全体を探究できる、特性や興味に応じた参加が可能なワークを実施。

→拒否や回避に向かうことなく、制作行為を媒介に「どの距離で関わるか」を自ら調整しながら「場に留まる安定」と「自己調整」が成立した。

ビジョンコラージュによる自己理解活動(第8回)

- ・ 子供たちはこれまでの体験を振り返りながら、好きなものや将来やりたいことを素材で表現するビジョンコラージュで興味関心や自己像を表現した。完成後は互いの作品を共有することで自己理解と他者理解を深める活動に取り組んだ。

→自己開示が「求められたから」ではなく「話したくなったから」行われていた点が特徴的であり、自己表現が他者に開かれた状態で成立していた。

支援
ポイント

- ・ 一人で没入することと、他者と共有することの両立が可能な空間の設定と制作や感覚体験を通じて、言語以外の表現を尊重する姿勢。

→ 作業単位の明確化、道具の個別化、工程を可視化するゾーニング、そして空間の可動性を組み合わせた環境をつくる。

- ・ 関係を急がず、安心が育つことを待つ伴走的支援。
- ・ 発言や積極性を求めず、行動の選択を本人に委ねる関わり。

→ 繊細さや慎重さと適合し、安心の中で自己表現が立ち上がるプロセスを支えていた。

支援場面から
導かれる、
支援のポイント
を記載しています。

全回
を通じた
子供の
変化

支援を受けて・・・

- ・ 初期は場を慎重に観察し、静かに参加する安定した姿勢が見られた。
- ・ 中期には場に留まる安定と自己調整が成立し、「試してみる」行動が現れた。
- ・ 後期には自己表現が他者に向けて開かれる段階へと発展した。

活動内容や環境等、より詳細な内容を確認されたい場合は付属資料もご参照ください。

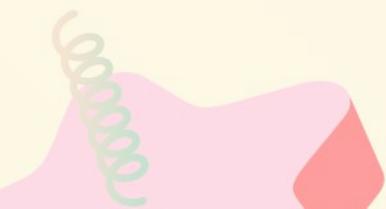
活動を通じた
子供の
変化
について
記載
して
いま
す。



学校外の子供の多様な学びに関する

調査研究事業

3 事例の紹介





事例の紹介



慶應義塾大学ラボ



(1) 調査研究の概要 (構成団体: 株式会社SPACE)

テーマ

「木と気」の学びプロジェクト

—自然・身体・環境とのつながりに気づき、本来の個別最適な学びに向かうための包括的調査研究—

検証内容

子どもの認知特性や興味関心を可視化しつつ、地域の自然・文化・風土を教材にしたプログラムを実施し、**興味・体験・学びが循環**するモデルを検証

対象

小学3年生～中学3年生

実施時期

令和7年11月(8回)

主な実施場所

日野市内・多摩市内

活動内容

自己理解につながるアセスメントツールを活用しつつ、地域資源を教材とした探究学習につながるプログラムを実施。

活動内容

第1回	君もULTLA —自分学入門—	自分の特性や興味関心、 学び方のヒントを知る
第2回	街の中の「気」をキャッチ できるか!?	街を歩き、風景を通して 「気づき」と「探究心」を育む
第3回	謎の木造建築のルーツを 探ろう	暮らしと文化の変遷を建築の 視点から学ぶ
第4回	桑の木が生糸に へんしん!?	桑の成長を通して、生命の循環と つながりを理解する
第5回	五感で味わう、秋の味覚	食材や自然素材を使って、色・ 香り・音・形の変化を感じ取る
第6回	草木の色をまとめて みよう	植物から色を抽出し、自然由来の 染色や化学反応を観察する
第7回	気の向くままに、 森の賢者へ	自分の“森の賢者”像を身体表現 で表し、感じたことを共有する
第8回	君もULTLA —自分学応用—	自分の中の変化とこれまでの 活動を紐づけ、理解する

活動概要

(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第1～4回

第1回

✓ 君もULTLA —自分学入門—

✓ 活動内容

自分の特性や興味を探りながら、他者との違いや個性の多様性に気づく。活動全体のテーマを共有し、自分なりの学びの視点を設定する。



第2回

✓ 街の中の「気」をキャッチできるか！？

✓ 活動内容

街を歩きながら、人工物と自然環境の調和や地域の特性を観察・記録する。身近な風景を通して「気づき」と「探究心」を育む。



第3回

✓ 謎の木造建築のルーツを探ろう

✓ 活動内容

昭和期の養蚕建築を訪ね、建物の構造や素材を観察する。現代建築との違いを比較し、暮らしと文化の変遷を建築の視点から学ぶ。



第4回

✓ 桑の木が生糸にへーんしん！？

✓ 活動内容

植物の構造と生育の仕組みを学ぶ。桑や農作物の成長を通して、生命の循環と人の営みのつながりを理解する。



(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第5～8回

第5回

✓ 五感で味わう、秋の味覚

✓ 活動内容

秋の食材や自然素材を使って、色・香り・音・形の変化を感じ取る。五感を使った表現活動を通して、食と生命の関係を体感的に学ぶ。



第6回

✓ 草木の色をまとめてみよう

✓ 活動内容

植物や草木から色を抽出し、自然由来の染色や化学反応を観察する。素材と環境の関係を理解し、科学的探究心と創造力を育む。



第7回

✓ 気の向くままに、森の賢者へ

✓ 活動内容

森の中で身体を解放し、自然の音や風を感じながら自由に体を動かす。動植物の知恵や気配を感じ取り、自分の“森の賢者”像を身体表現で表し、感じたことを共有する。



第8回

✓ 君もULTLA —自分学応用—

✓ 活動内容

これまでの活動をふりかえり、印象に残った学びや発見を共有する。自分の変化や成長を言語化し、次の探究への意欲を高める。



(2)活動内容から見た事例の分析①

参考タグ

視点拡張

環境構成

伴走支援

没入支援

感覚配慮

興味起点

制作活動

心理的安全性

タイトル

桑の木が**生糸にへーんしん！**? (第4回)

活動内容

- 桑から生糸が得られるまでの生物学的過程と、**人の工夫・技術について学ぶ**。
- 植物の構造や生育の仕組みを理解し、桑や農作物の成長を通して**生命の循環と人の営みのつながり**を考える。
- 繭から**糸を取り出す体験活動**を行う。



全体支援
(環境設定)

糸繰りを行う作業スペースに加え、昔の糸繰り機械や繭が展示されたスペース、絹糸製品が複数種類置かれたスペース、繭をお湯でふやかす事前準備を行うスペースなど、工程ごとに空間をゾーニングした。また、事前に2～5名でグループ分けを行い、**各グループにラボメンバーおよびコミュニケーター**を配置した。ラボメンバー以外の大人は室内の隅で見守り、全体を通して児童・生徒を支援した。

子供の
特徴・特性

Aさん

- 中学生。集団内での同調や無理な関係調整に強い疲労感を抱きやすい。
- テンションの高い人や距離の近い関わりに苦手意識がある。
- **音に対して、やや繊細**な傾向がある。

Bさん

- 小学校高学年。**昆虫・生物・自然物に対する関心が強い**。着席して一斉に話を聞くより、身体を動かしながら探索・創作する関わり方を好む。
- 関心の薄い活動では**参加形態を自分で調整する**傾向がある。

子供の
様子・変化

活動を通して…

- 制作や身体作業の場面では、複数人の会話が行われる環境下においても**周囲に左右されず、自身の作業に深く集中し続ける姿**が確認された。
- 過去の体験と現在の作業内容を自分で確認しながら取り組む様子が見られた。

活動を通して…

- **昆虫研究者の話**になると、集中力が明らかに高まり、熱心に話を聞いていた。自身が持参していた蚕のぬいぐるみに注目が集まり、それを聞いた説明が行われた際には、非常に嬉しそうな様子が見られた。
- 糸繰りの際、蚕が繭の中で死んでいることに抵抗を示し、当初は参加しなかったが、**周囲の様子を見て途中から参加し、次第に没入**していった。

支援
ポイント

本人のペースに委ねて反応を強要せず、**適切な距離を保ちながら必要時のみ補助し、制作過程や集中のあり方を評価・修正しない姿勢**で関わることで、学びの質が上がっていく状態を支えていた。

子供の**興味や身体感覚を起点とする行為を否定せず**、支援者が**行為と場をつなぐ媒介者として伴走的に関わり続けた**ことが、安心感の維持につながっていた。

(2)活動内容から見た事例の分析②

参考タグ

自己認識

環境構成

伴走支援

代弁支援

自己表現の尊重

心理的安全性

制作活動

タイトル

君もULTLA **—自分学応用—** (第8回)

活動内容

- 初めのアセスメント結果とプログラムでの体験を振り返り、**自己理解を高める活動**を行った。
- **ビジョンコラージュ**を作成し、自分の中の「原石」を見つけ、新しい自分と出会い続ける意義について探求。



全体支援
(環境設定)

参加児童が自由に創作できるように、多様な素材を配置した。また、自宅から持参した大切な物と組み合わせで即興で作品化することも認めた。即興で作品化することで**個性や多様性を表現できる環境**を作った。また、子供が安心して参加できるように、**信頼関係と自己選択を重視した伴走体制**を整備した。

子供の
特徴・特性

Cさん

- 小学校高年生。自分の**気持ちを伝えることが苦手**。感受性が繊細。
- 絵を描くこと、工作、音楽、推しのキャラクターに関する活動など、関心のある対象に対しては集中力を発揮する。

Dさん

- 小学校高学年。関係値の低い人に対して、**自己表現・自己開示することが得意ではない**。
- **環境の変化、適応が得意ではなく**、不注意が生じることがある。

子供の
様子・変化

活動を通して…

- 普段は人前で発表する様子がほとんど見られなかったが、コミュニケーターが**想いを代弁する形で関わる**ことで、「**発表してみたい**」という意欲を示す場面があった。
- 自分が好きだと感じている世界観を通じて、**他者と交わろうとする姿勢**が行動として表れていた。

活動を通して…

- シェアの時間に順番が回ると、作品に視線を落とした後、**自らのタイミングで言葉を発し、途切れず最後まで作品について語った**。
- 声量は大きくなかったが、**制作内容と自らの感覚・認識を結びつけて言葉で説明**する様子が確認された。

支援
ポイント

発言や積極性を無理に求めなかった。また、**行為・選択の尊重**や「**好きなものを媒介とした関わり**」を重視しつつ、言葉にならない思いを**必要に応じで代弁**した。

他の子供の**多様な表現が自然に視界に入る環境**を整備しつつ、コラージュ作りや絵画、素材選びなど、行動や発言は本人のタイミングを尊重し、**表現内容に評価や修正を加えず**、本人に委ねる関わりを行った。

(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析

事例概要

安心感を土台とした自由度の高い環境設計により、子供一人ひとりの興味関心を引き出した事例(Eさん)



子供の特徴・特性

- 中学生。自分の気持ちを言葉で表現することが苦手で、繊細な感受性を持つ。
- 特定の相手との関係に安心感を見出しやすく、関係に依存する傾向が見られる。
- 集団のペースや周囲に合わせることに強いストレスを感じる。

支援場面

蚕から糸へを体験する探究活動(第4回)

- 子供たちは個別に用意された道具で自分のペースで糸織りを体験しつつ、工程ごとに分けられた空間を自由に行き来しながら製作の流れ全体を探究できる、特性や興味に応じた参加が可能なワークを実施。
- 拒否や回避に向かうことなく、制作行為を媒介に「どの距離で関わるか」を自ら調整しながら「場に留まる安定」と「自己調整」が成立した。

ビジョンカラーージュによる自己理解活動(第8回)

- 子供たちはこれまでの体験を振り返りながら、好きなものや将来やりたいことを素材で表現するビジョンカラーージュで興味関心や自己像を表現した。完成後は互いの作品を共有することで自己理解と他者理解を深める活動に取り組んだ。
- 自己開示が「求められたから」ではなく「話したくなったから」行われていた点が特徴的であり、自己表現が他者に開かれた状態で成立していた。

支援ポイント

- 一人で没入することと、他者と共有することの両立が可能な空間の設定と制作や感覚体験を通じて、言語以外の表現を尊重する姿勢。
- 作業単位の明確化、道具の個別化、工程を可視化するゾーニング、そして空間の可動性を組み合わせた環境をつくる。

- 関係を急がず、安心が育つことを待つ伴走的支援。
 - 発言や積極性を求めず、行動の選択を本人に委ねる関わり。
- 繊細さや慎重さと適合し、安心の中で自己表現が立ち上がるプロセスを支えていた。

全回を通じた子供の変化

支援を受けて・・・

- 初期は場を慎重に観察し、静かに参加する安定した姿勢が見られた。
- 中期には場に留まる安定と自己調整が成立し、「試してみる」行動が現れた。
- 後期には自己表現が他者に向けて開かれる段階へと発展した。

(4)フリースクール等での実践

実践のための条件

<費用>

- ・ 地域資源や外部施設を活用し、教材費・人件費を抑えつつ、保険や会場費を含め低コストで実施可能。(合計:約70,000円前後)

<支援者に求められるもの>

- ・ 子供や場の状況を見立て、**安心を基盤**に関わりを調整し、**段階的に学びへつなぐ判断力**。

<人員>

- ・ 子供4名程度に対して最低限1名の支援者を配置することが望ましい。

フリースクール等が日常で再現するためのヒントや代替案

- ・ 屋内外や静と動を切り替えられ、関わり方を選べる環境を整える。
- ・ 不参加や見守りも含め、**多様な関与の形**を「参加」として認める。
- ・ 支援者は教える立場に固定せず、**行為や関心に寄り添う伴走者**として関わる。
- ・ **地域人材の協力**と簡易な振り返りを取り入れ、少人数・低負担で実践を続ける。

実践に向けた留意事項

<子供に対する留意事項>

- ・ 無理な内省や言語化を求めず、**行為そのものを尊重**し、子供の状態に応じて見通しや選択肢を示し安心感を守る。

<環境に対する留意事項>

- ・ **安全と刺激量に配慮**し、状況に応じて活動や場所を調整・中止できる**柔軟な体制**を整える。



(5) 調査研究活動の関係者の声

参加児童生徒の声

- 別の角度からの見方や、この分野を学びたいと思う気持ちがより1層強くなった。
- 専門家の人からいろいろ話を聞く貴重な経験となり、嬉しかった。
- 街を探検して気を見つけようというテーマの回では、街の良いところを見つめる視点で細かいことに目を向けるようになった。

協力フリースクールスタッフの声

- フリースクールとしては、テーマに沿った視点を持って街を歩いて、何に気づくかという活動はしたことはなく、いつでも取り入れられると感じた。
- 実際に自分らしく、自分の好きなことで、大人になって活躍している人が物語を伝えてくれる機会はなかなかないので、子どもたちの励ましになった。
- 様々な専門性を持った人たちが話をしてくれた。一人一人反応するところが違うものの、それぞれが興味のあるところに反応して、刺激を得ている様子が伺えた。

ラボメンバーの声

- アセスメントや寄り添った問いかけを尊重し、子供一人一人が自由に安心して個性を生かしていける触れ合いのあり方を大事にした。
- フリースクールでは既に心理的安全性の高い状態から活動をスタートできる。活動と普段やっていることのつながりを深めていくと、子供の興味関心を広げられるという新たな発見があった。
- 設計された活動のなかで子供の心を自由解放させつつ、学びに集約させていく。そのバランス感覚が課題であり、この調査・プログラムの面白いところだったと感じる。



事例の紹介



帝京大学ラボ



(1) 調査研究の概要

テーマ

子どもの視点と関係性を広げるICTを活用した未来創造プロジェクト
ー心理社会的観点に基づく子ども理解と支援のあり方の検証ー

検証内容

ICTを活用しながら、子どもの興味・関心を引き出すプロジェクト(テーマ:未来創造)を実施し、**子どもの視点と関係性を広げる**手法を検証

対象

小学3年生～中学3年生

実施時期

令和7年10月～12月(8回)

主な実施場所

レンタルスペース、植物園、科学館

活動内容

子ども一人ひとりに学生パートナーが伴走する形式で、ICTを活用して未来のイメージを創造するなど、子どもの興味・関心を引き出す取組を実施。

活動内容

第1回	未来を創造しよう!①	折り紙、粘土、絵の具等を用いた自由工作・お絵描きを行う
第2回	自然に触れる①	未来の庭を想像し、寄せ植えを行う
第3回	自然に触れる②	植物を観察・命名し、撮影した写真で図鑑を作る
第4回	未来を創造しよう!②	AI(注1)を活用して、今の自分、10年後の自分をイラストで表現する
第5回	創造する①	レゴ®ブロック(注2)を活用して、住みたい部屋・家を作る
第6回	創造する②	プラネタリウムを鑑賞し、感想を共有する
第7回	未来を創造しよう!③	AIを活用して、「100年後の未来都市(東京)」の画像を作る
第8回	発表会 未来都市に行こう!	各自の「100年後の未来都市東京」を共有する

注1:使用したAIアプリには13歳未満の子供の使用制限があるため、学生パートナーが、子どもとの対話の中で子どもの意図を汲んで、AIに入力する運用としました。

注2:本資料は、LEGO®/レゴ®の商標所有者であるレゴグループの「フェアプレイポリシー(<https://www.lego.com/ja-jp/legal/notices-and-policies/fair-play>)」に則り作成していますが、レゴグループの承認・許可・スポンサー契約を得て作成しているものではありません。

(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第1～4回

第1回

✓ 未来を創造しよう！①

✓ 活動内容

子供と学生パートナーがペアを組み、好きなこと、趣味等、自己紹介を行う。折り紙、粘土、絵の具、カラーペン、紙コップ、ボンド等の素材を用いて、各自、自由に工作またはお絵描きを行い、作品を介してペアで会話する。タブレットを活用して子供の作品制作のアイデアを拡張。完成作品にタイトルをつけ、全体に共有。



第2回

✓ 自然に触れる①

✓ 活動内容

子供たちが、将来、自分が住みたい家の庭をイメージして、好みの苗を1～2苗選び、学生パートナーとのペアで、寄せ植えを行う。タブレットを活用して、寄せ植えにした植物の育て方を検索する。折り紙、粘土、絵の具等の素材を用いて、寄せ植え作品に装飾を施す。完成作品にタイトルをつけ、全体に共有。



第3回

✓ 自然に触れる②

✓ 活動内容

国営昭和記念公園にて、小さな花から大きな木まで視点を広げながら植物を観察し、関心を持った植物を写真に撮る。撮影した植物の画像に名前を付けて、タブレット上で植物図鑑を作る。開放感のある空間で、遊具で遊ぶ、鬼ごっこをするなど、自由行動。学生パートナーとペアで移動・行動し、会話の機会を多く設ける。



第4回

✓ 未来を創造しよう！②

✓ 活動内容

AI講師が自己紹介のAI生成画像・動画を例示し、AI使用上の注意事項、AIへの「お願いの書き方」について解説する。学生パートナーと話し合いながら、AIを用いて、今の自分、10年後のなりたい自分を表すキャラクターの画像を生成し、自己紹介カードを作る(※)。完成した自己紹介カードを全体に共有。



(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第5～8回

第5回

✓ 創造する①

✓ 活動内容

異なるフリースクールの子供たちを混合させる形で席替えを行い、自己紹介を交わす。子供と学生パートナーのペアで会話しながらレゴ®ブロックで「将来住みたい部屋」をつくる。庭や家へと拡張してもよい。異なる種類のレゴ®ブロックがある他テーブルと貸し借りも行いながら、作品を仕上げる。完成品を全体で共有する。

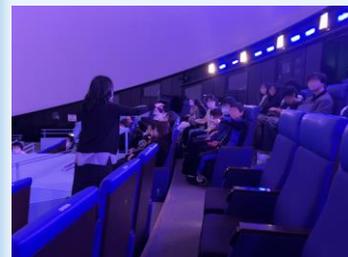


第6回

✓ 創造する②

✓ 活動内容

子供と学生パートナーがペアでプラネタリウム（当日の八王子駅周辺の星空の解説、「宇宙ヒストリア～130億光年 原子の旅～」という宇宙の138億年の歴史物語）を鑑賞し、宇宙への興味を深め、地球の未来への想像を広げる。鑑賞後、第5回と同じグループで感想を共有する。各テーブルから1ペアが全体に感想を共有する。



第7回

✓ 未来を創造しよう！③

✓ 活動内容

100年後の東京をテーマに、子供たちが学生パートナーと対話しながら紙面上にイメージを描く。AI講師がGeminiの使い方を説明。AIを活用して100年後の東京の画像を生成する(※)。画像を見ながら、イメージに合うよう、AIへ修正を依頼する。各ペアで作品制作の感想を共有し、全体へ感想を共有する。



第8回

✓ 発表会 未来都市に行こう！

✓ 活動内容

第7回活動で生成した画像を動画化する(※)。発表会では、画像または動画作品を全体に共有する。ありがとうの会では、学生パートナーが作成した活動写真のアルバムを見ながら、全8回の活動を振り返る。学生パートナーから子供へ、賞状、メダルを贈り、達成感を味わう。子供から学生パートナーへ、準備した手紙や工作を贈る。



(2)活動内容から見た事例の分析①

参考タグ

視点拡張

伴走支援

社会性

創意工夫

興味起点

自己表現

主体性

心理的安全性

タイトル

未来を創造しよう！②(第4回)

活動内容

「AIを用いた自己紹介カードの作成」ワーク

- AI講師が、AI生成画像・動画を使った自己紹介を行う。
- AIへの「お願い」の方法を学ぶ。
- 学生パートナーと話し合いながら、今の自分(好きなこと、趣味)と10年後の自分の自己紹介カードを作成する(※)。
- 学生パートナーが子供のアイデアをプロンプトに変換し、子供の創造性を引き出す。



「全体共有」

- 子供と学生パートナーの各ペアで、誰がどのように自己紹介カードを全体に共有するか、話し合う。
- 学生パートナーが、iPadから子供の自己紹介カードを会場前方のスクリーンへ投影し、全体に共有する。
- 子供本人または学生パートナーが代わって発表を行う。



全体支援
(環境設定)

各ペアにiPadを配置し、ChatGPTを使用。また、子供1名を学生パートナー1名が伴走。第4回までは同じ協力フリースクールの中で1～3組に分かれ、それぞれテーブルに着席。

子供の
特徴・特性

Aさん

- 小学校高学年。特定の友達以外、直接話せない。
- 自分で決定することが難しい。質問に答えられず、硬直することがある。

Bさん

- 小学校高学年。全く自由だと戸惑いがあり、アイデアが浮かばない。
- 慣れない環境に不安になる。知らない人たちとの集団行動が苦手。

子供の
様子・変化

活動を通して・・・

- 仲良しの友達と声を上げて笑う姿が見られ、話し声が大きくなった。学生パートナーの発言への反応も増えた。
- 心を開く機会が増え、社会性の成長が見られる。第4回以降、初めてフリースクールの先生に直接話しかけるようになった。

活動を通して・・・

- AIと質問に応じる遊びのようなやり取りを通して画像生成を行い、学生パートナーも驚くような独創的なアイデアで作品を作った。
- それまでの回になく意欲的かつ主体的に活動し、自己紹介カードの中でも「夢は自分で言いたい」と初めて自分から発表した。

支援
ポイント

無理に関わりを促さず、制作や発想を尊重して見守る姿勢が安心感につながった。困った場面ではさりげなく支援し、工夫や努力を認める声かけを行うことで、自信を持って取り組み続けることができた。

成形を示さずヒントを提示する関わりは、自ら考え工夫する姿勢を促した。また、信頼関係を築いた学生パートナーの存在は安心感の基盤となり、活動への積極性を支えた。

(2)活動内容から見た事例の分析②

参考タグ

環境構成

伴走支援

他者交流

受容

興味起点

自己表現

主体性

共感的理解

タイトル

創造する①(第5回)

「テーブルごとに自己紹介」ワーク

- 異なる協力フリースクールの子供が同じ組になるよう、席替えを実施し、新しい出会いを創出する。
- 第4回の自己紹介での発表内容を踏まえ、格闘技の好きな子供たちを同じテーブルにする、不安の強い子供は席替えしない、など、子供の**特性や興味・関心**に配慮。
- テーブルごとに自己紹介し、**最近あったこと**を共有する。



「ブロックで将来住みたい部屋の創作」ワーク

- 空間認知能力と創造性を育む狙いで、レゴ®ブロックを用いて「**将来住みたい部屋**」を制作する。庭や家に拡張してよい。
- 各テーブルでレゴ®ブロックセットを**共用**する。奪い合いが起きても、学び合いとして受容する。
- ペアごとに、学生パートナーと作品制作を介して**会話**する。
- テーブル間を自由に移動し、**パーツの貸し借り**を行うことを推奨。



活動内容

全体支援
(環境設定)

各テーブルに、ゲームのキャラクター等、**子供の興味に合わせたレゴ®ブロックセット1袋**を配置。あえて均一にレゴ®ブロックを配分しなかった。自己紹介後にレゴ®ブロックの袋を開き、一緒に使用した。

子供の
特徴・特性

Cさん

- 小学校低学年。**内気な**性格でおとなしい。**言葉で表現**することが苦手。
- 周りに合わせて**しまい、傷つきやすい。我慢がち。

Dさん

- 小学校中学生。声を掛けると応じるが、**自分からあまり話さない**。
- 自己表現、想像することが苦手**。考えをまとめるのに時間が掛かる。

子供の
様子・変化

活動を通して...

- 冒頭、緊張していたが、**表情が柔らかく**なり、楽しそうに取り組んだ。
- 初めは何も言わずに他のテーブルから**パーツを借り**ていたが、「貰うね」と**声掛け**できるようになった。自分から学生パートナーに**話しかけた**。
- 学生パートナーを介せず、**自分の言葉**で作品を**発表**できた。

活動を通して...

- 冒頭、消極的な態度で何を作ればいいのか戸惑っていたが、自分の中で**作りたいものを見つけ**、熱中して取り組み、「家でもやりたい」と発言。
- 躊躇していたが、自ら**パーツを借り**に行き、**他者との関わり**が見られた。
- フリースクールで、自分から進んで文化祭を手伝い、**積極性**が増した。

支援
ポイント

本人の**興味や得意分野**を手がかりに質問をすることで、自発的な発言や行動が引き出され、徐々に**他者との関わり**も広がっていった。また、友達の存在や**本人のペース**で**進められる環境**が主体的な活動を支えた。

無理に引っ張ることなく、本人のペースを尊重し、作り終えるのを**待つ姿勢**で伴走した。また、本人の気持ちや考えを肯定する**共感的な声かけ**が安心感と関係性の形成につながった。

活動内容や環境等、より詳細な内容を確認されたい場合は附属資料もご参照ください。

(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析

事例概要

学生パートナーの継続的な関わりと拡張的応答によって、**不安と緊張から自己肯定感と他者との関わりへ変化**

子供の特徴・特性

- ・ 小学校高学年。**慎重**。拘りが強く、あまり挑戦したがない。失敗を恐れる。
- ・ 慣れない場では母親同伴でなければ不安。**他者と打ち解けるまでに時間を要する。**



支援場面

「自然に触れる②」(第3回)

母親が「お母さんとじゃなくて、お姉さんと」と促し、意図的に距離を取ったことで、初めて学生パートナーと二人きりで植物園を散策。

→**母親と離れて**活動できるようになった。冒頭、緊張して口数が少なかったが、関心のある植物や個人的な体験について、学生パートナーに**自分から話しかけた。**

「創造する①」(第5回)

Eさんのテーブルに珍しいレゴ®ブロックを配置。席替えでは、Eさんのいる退避スペース近くに同じフリースクールのFさんを配置。

→Eさんのテーブルにブロックを借りにきた子供たちと**言葉を交わした。**
FさんがEさんに「作品を見せたい」と声掛けし、初めて**活動スペースに入室した。**

「未来を想像しよう③」(第7回) 「発表会」(第8回)

100年後の虫をテーマに画像・動画生成。第8回では退避スペースを設けず、初めて活動スペースで皆と一緒に参加。

→学生パートナーが偶然目の合ったGさんに「かっこよくない？」とEさんの画像を示したことで、EさんがGさんに**作品を説明。**それまで作品発表へ無反応だったが、制作中、**他者を意識し、不安を言語化。**発表中、**他の子供の作品に小さく感想を言った。**

支援ポイント

- ・ 「外にいてもよい」「見ているだけでもよい」と**逃げ道**を用意したことで、Eさんが自分で**参加度を調整**できるようになった。
 - ・ どのような話題でも、学生パートナーがEさんの興味を**受容**するのみならず、**拡張し、積極的に評価する応答**を行ったことで、Eさんの**発言意欲、自己表現**を促進した。
 - ・ パーテーションの使用や机配置の調整など、**段階的に**他の子供たちとの距離を縮める環境設定が**安心感**につながった。
 - ・ 学生パートナーが**継続的**に関わり、Eさんが**自分でできるようになるための足場**を提供する役割を果たした。
- 安心安全な環境、多様な参加形態、拡張的応答、段階的な変化、継続的な1対1の関係性

支援を受けて・・・

- ・ 当初は強い緊張から沈黙が多かったが、回を重ねるうちに質問に応答。自ら発話し、最終的に**会話を主導**する姿が見られた。
- ・ 後半は母親と離れても安定して過ごし、学生パートナー以外にも、**他の子供との関わり**も見られた。
- ・ 活動中盤以降は、フリースクールや地域の活動にも保護者の同伴なく参加し、初対面の子供に声を掛けるなど、**自信**ある行動が増えて新しい活動にも**挑戦**するようになった。

活動内容や環境等、より詳細な内容を確認されたい場合は附属資料もご参照ください。

全回を通じた子供の変化

(4)フリースクール等での実践

実践のための条件

<費用>

- iPad、ネット環境、AIアプリのアカウント、工作道具・寄せ植えセット購入費、屋外活動費(交通費・入場料)

<支援者に求められるもの>

- **子供理解**、子供の様子(内面の状態を含む)の観察

<人員>

- 企画運営者に加え、**1対1の継続した伴走支援者**

フリースクール等が日常で再現するためのヒントや代替案

- 地域性やフリースクールの独自性を踏まえ、**季節の行事**を取り入れ、**体験の幅**を広げる。
- フリースクールの**子供同士の繋がり**を深め、適宜、**地域や学校との交流**の機会を設ける。
- **身近な資源**を活かし、無理のない頻度で継続する。

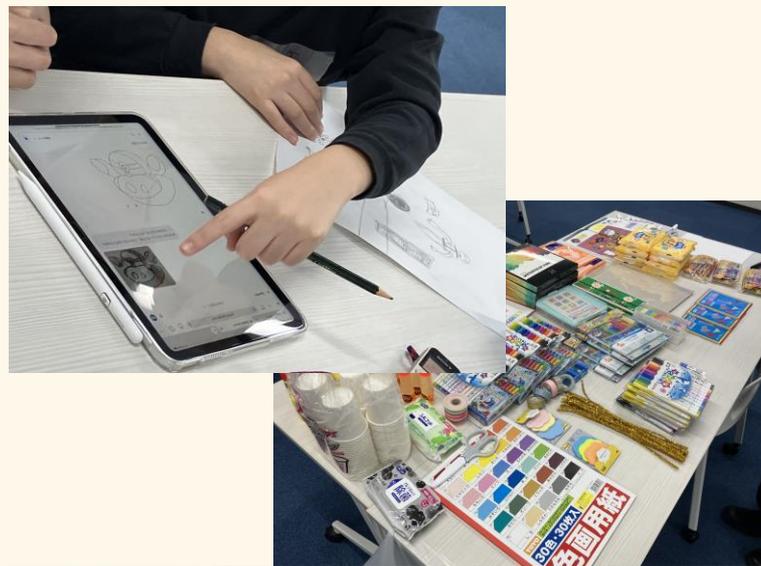
実践に向けた留意事項

<子供に対する留意事項>

- 子供の**興味関心**に寄り添った柔軟な活動設計を行い、「待つ」**姿勢**、**共感的理解**を重視しながら接する。

<環境に対する留意事項>

- 子供の**安全安心**を最優先に、一人ひとりの状態に応じた環境調整を行う。



(5) 調査研究活動の関係者の声

参加児童生徒の声

- 初めて会う人と話すのが苦手だったが、今回の活動を通じて、**知らない人とも話しやすくなった**。
- レゴ®ブロックを使って「自分の住みたい家」を作る活動が楽しかった。
- 大学生がさまざまな話題を振ってくれるなど、親しみを持って接してくれたことが嬉しかった。そのおかげで、**緊張せず普段の自分のまま話す**ことができた。

協力フリースクールスタッフの声

- 回を重ねるごとに、**自分の言葉で意思表示を行える様になる姿**が見られた。
- 普段は工作やAI等の活動に関心を示しているが、**自然と触れ合う活動においても積極的に楽しむ様子**が見られ、フリースクールにおいても**同様の体験活動を取り入れる意義**を感じた。
- 人に慣れるまで時間を要する子供が、2回目の活動で学生パートナーと**打ち解けることができ**ており、**大きな変化**が見られた。

ラボメンバーの声

- スモールステップで子供に寄り添い、**関係性を広げながら参加を促進**してきたことで、交流や成長が着実に見られた。
- **ICT活用と学生パートナーの寄り添い**により、興味の薄かった子供が自ら**関心を高め積極的に取り組む姿**が見られた。
- 多様な活動への興味が懸念していたが、子供は毎回満足していた。活動内容だけでなく、「**誰とどのように行うか**」が重要だと気づいた。



事例の紹介



東京家政大学ラボ



(1) 調査研究の概要

テーマ 表現活動を通じた社会性向上への試み

検証内容 「好きなこと」や「得意なこと」を起点に、「美術展」形式の表現活動を実施し、**共感・自己肯定感や社会性の向上**につながる手法を検証

対象

小学3年生～中学3年生

実施時期

令和7年10月～12月(8回)

主な実施場所

協力フリースクール

活動内容

個人・グループで制作した作品を「美術展」の形式で他者に紹介し、「いいね」や感想といった気持ちをかたちにして贈り合う活動を実施。

活動内容

第1回	自己紹介・AIリテラシー	【個人活動・導入】 ・AI(注1)リテラシーを学ぶ ・AIを活用した自分の名刺、いいねカードづくり
第2回	住みたい家	【個人制作と発表】 ・表現したいものを考える ・作品づくり
第3回	住みたい星	
第4回	展示&交流	【第1回美術展】 ・作品の美術展 ・いいねカードを用いた交流
第5回	スクイグル法(注2)での制作	【グループ制作】 ・くじ等を用いて、グループを編成 ・グループで美術展の方向性を話し合う ・各回で異なる手法を用いて作品制作
第6回		
第7回	コラージュ法での制作	
第8回	展示&交流	【第2回美術展】 ・グループ作品の美術展 ・再びいいねカードを用いた交流

注1: 使用したAIアプリには13歳未満の子供の使用制限があるため、子供の意図を汲んで、学生サポーター等がAIに入力する運用としました。

注2: 一発書きで線を引き、線の中から絵に見えるものを探し、描き足していく手法。

(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第1～6回

第1回

✓ 自己紹介・名札、名刺作り・いいねカード作成

✓ 活動内容

名札、名刺を制作し、近い席の子同士で自己紹介と名刺交換を実施。第3回以降で使う「いいねカード」を自由にデザインして作成し、活動参加の安心感と交流の土台づくりを行う。



第2回・第3回

✓ 住みたい家・住みたい星

✓ 活動内容

「自分が住みたい家」をテーマに、言語化を通し、子供たちが表現したいものを具体的に作る。必要に応じてAIを発想の補助として用い、主体性を尊重しながら言語化・達成感・自己効力感を高める。



第4回

✓ 展示&交流

✓ 活動内容

鑑賞と交流の時間で互いに良さを見つけて言葉にし、「いいねカード」でもらった感想を振り返って共有する。評価ではなく、良いところを見つける視点を育て、受け取る力・伝える力と安心感を強化する。



第5回・第6回

✓ スクイグル法でのグループ制作

✓ 活動内容

子供の意志を配慮しつつ引き延ばしでグループ分けを行う。AIを用いてテーマを明確化し、なぐり描きの線から見えたものを話し合いながら色付け・装飾して共同制作を行う。発言と受容を体験し、コミュニケーションと社会性を促進する。



(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第7～8回

第7回

✓ コラージュ法でのグループ制作

✓ 活動内容

くじ引きでグループ分けを行う。AIでテーマを明確化し、雑誌の切り抜きやステッカー等の身近な素材を用いて、テーマに沿って制作を行う。取り組みやすい素材で自己表現を広げ、グループの中での信頼関係づくりと交流を促進する。



第8回

✓ みんなの美術館

✓ 活動内容

第5～7回の作品について、「いいねカード」で鑑賞・コメント交換ののち、受け取った感想を共有する。全体を振り返り、相互交流による肯定的な体験をまとめ、社交性と自尊感情の向上につなげる。



(2)活動内容から見た事例の分析①

参考タグ

環境構成

自己表現

創作活動

心理的安全性

視点拡張

興味起点

伴走支援

自己表現の促進

タイトル

住みたい家・住みたい星(第2回・第3回)

活動内容

- 活動趣旨を説明し、「自分が住みたい家」「家ってなんだろう？」という問いかけでテーマを提示する。
- 好きな空間や落ち着く場所を思い浮かべ、絵や言葉で表現し、「住みたい家に欠かせないもの」を5つ書き出して簡単な間取りや外観スケッチを作る。
- 色鉛筆やペン、シールなどで名刺を自由に制作し、ペアやグループで見せ合いながら自分らしさを振り返る。



全体支援
(環境設定)

机上に画材や文具をジャンルごとに整備。子供たちが休憩や一人で落ち着けるスペースを確保するとともに、活動中は机以外での制作や途中参加、見るだけの参加、アイデアだけ描く、色だけ塗るなど多様な表現方法を認める。スタッフは理由を問わず休憩スペースで受け入れ、否定せず互いの表現を尊重し、「完成しなくてもよい」「途中でも発表可能」と明言して安心できる環境を整える。

子供の特徴
・特性

Aさん

- 中学生。人の気持ちを汲み取り過ぎて苦しくなってしまう。
- 気を遣い過ぎてしまう。

Bさん

- 小学校低学年。人と関わることは好きだが、思いが伝わらないと感じると感情が爆発することがある。
- 料理、友達と遊ぶこと、ゲーム、「つくる」のが好き。

子供の
様子・変化

活動を通して…

- 活動開始直後から積極的に制作に取り組み、家の間取り図を描くなど具体的なイメージを形にしていた。周囲と会話を交えながら活動に没入し、休憩中も集中を維持して制作を継続した。さらに、班内で困っている参加者に提案するなど、周囲へ配慮した関わりも見られた。

活動を通して…

- 活動開始時から主体的に制作へ取り組み、家や庭、色彩を工夫して自身のイメージを表現していた。他者の作品に楽しげに反応し、学生とも家族の話題を交えて笑顔で交流。休憩中も制作を続けつつ他者の発表に関心を示し、微笑みながら聞く姿が見られた。

支援
ポイント

質問・肯定・想像を広げる声掛けにより子供の語りが引き出され、評価ではなく関心を向ける姿勢が自己表現を促進した。また、参加の形に応じて介入の量とタイミングを調整する支援が有効であった。

質問型の声掛けと肯定的なフィードバック、想像を広げる発展的問いかけが、子供の語りと設定追加を促し、自己表現と言語化を支える有効な支援につながった。

(2)活動内容から見た事例の分析②

参考タグ

創作活動

心理的安全性

相互理解の促進

表現の多様性

視点拡張

協働関係の育成

タイトル

スクイグル法でのグループ制作(第5回・第6回)

活動内容

- ・ スクイグル法と作品作りの進め方について説明を行う。
- ・ くじ引きで異学年グループに分けた後、AIを活用しながら、各グループで作品のテーマを明確化して決めていく。
- ・ 画用紙に自由に一本線を描き、グループで話し合いながら色付けや飾り付けをして作品を完成させる。



全体支援
(環境設定)

展示形式で自由に回遊できる空間を整え、作品を介した自然な関わりを生むことで心理的負担を軽減する。画材配置や一人になれる場所を確保し、活動場所の選択も柔軟に認める。感想は強制せず、否定しない関わりと適切な距離感を共有し、主体性を尊重した安心できる鑑賞環境を目指す。

子供の特徴
・特性

Aさん

- ・ 小学校低学年。字の読み書きと勉強に苦手意識がある。
- ・ 内心では嬉しい時も、クールに振舞う。
- ・ 工作、かわいいキャラクター、ゲームを好む。

Bさん

- ・ 中学生。温厚な性格。
- ・ 急な大声などの聴覚刺激に対して敏感な反応が見られる。
- ・ 騒がしくなると、「うるさい」など、直接言うことがある。

子供の
様子・変化

活動を通して…

- ・ シールや点つなぎなど表現方法の幅が広がり、他者の表現を取り入れながら制作を進める姿が見られた。さらに、欲しい素材を言葉で伝えたり、大人からの提案を受け入れたり、他者とのやりとりを通した主体的な参加が増加した。

活動を通して…

- ・ 活動への参加姿勢に明確な変化が見られた。表情が和らぎ、グループ活動に対しても意欲的に取り組む様子が確認された。担当者の質問に自分の言葉で応答する場面が増え、作品を介して他者と会話を交わす機会も広がった。

支援
ポイント

子供同士や支援者との関わりで共感や気づきを尊重した。また、自己決定や主体性を重視しつつ、否定せず寄り添い、活動参加や表現の多様性を認めることで、安心して取り組むことができた。

子供の主体性や自己表現を尊重した。また、感想や発言を強制せず寄り添いながら受け入れた。さらに、途中参加や多様な表現も認め、互いの表現を否定せず尊重することで、安心感につながった。

(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析

事例概要

AI活用の創作と美術展交流で 自尊心と社会性を育まれた事例

子供の特徴・特性

- ・ 小学校高学年。やったことを見てほしい気持ちが強く、対応が難しい際にも必要以上に話してくることがある。
- ・ やりたいと思わないことを強制されることが苦手。



支援場面

スクイグルで広げる発想ワーク(第5回・第6回)

- ・ スクイグル法を用いたグループワークで、まず、くじ引きで異学年のグループを作る。その後、AIを活用しながらテーマを明確化し、線から見える形を話し合い色付け・飾り付けで絵を完成させることで、**発言と受容を通して社会性と表現力を育むワーク**を実施。
- 活動内容が本人にとって楽しみづらいと感じる場合でも、最初から投げ出すことは少なくなり、**友達と共同して取り組もうとする姿勢**が見られるようになった。

支援ポイント

- ・ スクイグル法など内面を表現する活動では、**着手に躊躇する子供向けの質問や選択肢の提示**を行う。
- 答えやすい質問や小さな選択肢の提示によって、**活動の導入を支援**する。

支援を受けて・・・

- ・ 活動当初は言葉遣いがやや強く、他者との関わりにおいて調整が必要な場面が見られた。
- ・ 言葉の強さは減り、友人と**共同で意欲的**に制作に取り組み、肯定的な声掛けに**素直に反応**する様子が見られた。
- ・ グループ制作で**自分の意見**を伝えた上で役割を担い、**他者の表現理解や支援的関わり**を通して協働行動が増えた。

雑誌や素材で自由に作るコラージュワーク(第7回)

- ・ コラージュ法を用いたグループワークで、まず、くじ引きで異学年のグループを作る。その後、AIを活用しながらテーマを明確化し、雑誌やシール等を貼りながら作品を制作する過程で**自己表現と信頼関係を育み、社会性を高めるワーク**を実施。
- グループ制作において自分の好みや意見を伝え、役割を引き受ける姿が見られ、**相手の表現を理解しようと努める姿勢**や、**他者への提案・支援的な関わり**も見られ、協働的な行動が増加した。

- ・ 雑誌・写真など複数の素材を用意し、**子供が自由に選択**して制作できるようにする。
- 「交流を強制しない」「個人作業でも成立する」**自由度の高い環境**を作る。

全回を通じた子供の変化

(4)フリースクール等での実践

実践のための条件

<費用>

- ・ A4用紙、色鉛筆、クレヨン、サインペン、カラーペン、のり、ハサミ、シール、雑誌などフリースクールに用意のないもの。

<支援者に求められるもの>

- ・ **子どもの特性や背景**を理解し、**適切な距離感**で個別・集団を俯瞰しつつ**声掛けを工夫**して主体性を引き出す力。

<人員>

- ・ 1グループ(子ども3~5名)あたり大人1名+全体の進行役1名

フリースクール等が日常で再現するためのヒントや代替案

- ・ 活動を行いやすいグループ構成をフリースクールが行い、フリースクール職員が**巡回して声掛け**をする形で行う。
- ・ 自尊心に関わる**アンケート**の実施や**感想シート**への回答。

実践に向けた留意事項

<子供に対する留意事項>

- ・ **効果的な声掛け**を用いた子どもの**興味や主体性を引き出す関わり**や**安心して参加**できる環境づくり、安全面への配慮を行う。

<環境に対する留意事項>

- ・ 心身の安全が確保できない場合や**子ども同士の重大なトラブル**がある場合、**支援者の条件が整わない場合**、**実施を中止**したほうが良い。



(5) 調査研究活動の関係者の声

参加児童生徒の声

- これまで他者の良いところを伝えることが難しかったが、活動を通じて伝えられるようになり、**コミュニケーション能力が高まった**と感じた。
- 「いいねカード」を作る活動が楽しかった。
- 今まで描いたことのない白黒の絵に挑戦し、上手に描けたことが良かった。

協力フリースクールスタッフの声

- 互いに褒めあったり、「いいねカード」を通じて**他者の良いところを伝える経験**ができたことは、子供たちにとって大きな成長となった。
- **人の出入りが多いフリースクール**では、今回のラボ活動のように**自分を知ってもらう活動や、相手を理解する活動**を定期的に行うことが、**過ごしやすい場づくり**につながると感じた。
- 他のフリースクールの子供と同じグループになり緊張していたが、発言を機に表情が和らぎ、**自分のやりたいことを積極的に話す**ようになった。

ラボメンバーの声

- 何かを制作する過程で、子供たちが**作品と向き合い、小グループで共有する体験**を通して、**社会性を育む**ことができるよう、活動内容を企画した。
- 子供一人一人が**何を求めているのか、客観的に評価・分析する必要性**を感じた。
- 活動を実施する際には、フリースクールの**スタッフがまず体験し内容を理解**することで、子供たちに意味を持った提案と実施ができるのではないかと感じた。



事例の紹介



日本体育大学ラボ



(1) 調査研究の概要 (構成団体: 昭和薬科大学、洗足こども短期大学)

テーマ 遊びで自らのからだを感じて知って考える！

検証内容 子ども自身が「遊び」によるからだや生活の変化を感じて知って考える活動を実施し、**効果的な活動(からだの学習)**の手法を検証

対象

小学2年生～中学2年生

実施時期

令和7年10月～11月(8回)

主な実施場所

協力フリースクールとその近隣公園

活動内容

屋内外での「遊び」前後で、心拍数、体温等を測定し、子ども自身がからだや生活の変化を感じて、知って、考える活動を実施。

活動内容

第1回	自分のからだを感じよう	心拍数、体温等を測り、自分のからだを知る
第2回	からだを使って遊ぼう① モノを使って遊ぼう	新聞紙やフラフープを使用し、様々な方法でからだを動かす
第3回	からだを使って遊ぼう② からだを感じて遊ぼう	触覚や味覚、嗅覚を使い、からだを動かす
第4回	屋外で活動しよう① 屋外を感じて遊ぼう	視覚以外の感覚を研ぎ澄まし、手触りビンゴを作る
第5回	屋外で活動しよう② 屋外で探してみよう	屋外にあるもので「●●」に見えるものを探す
第6回	みんなでモノづくり① からだを使って絵を作ろう	指と掌を使い、グループごとに絵を描く
第7回	みんなでモノづくり② 写真に息を吹きこもう	写真に合う言葉を考えて写真に加え、1コマ漫画を作る
第8回	仲間のからだを感じよう	仲間のからだを測定し、スキンシップを取り入れ遊ぶ

活動概要

(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第1～4回

第1回

✓ 自分のからだを感じよう

✓ 活動内容

自分のからだを測り、その意味を知ること、からだへ興味関心を持つ。安静時や日常動作などの状況下で、心拍数・体温・血圧・唾液アミラーゼ等の客観指標と主観指標を測定する。結果を随時解説し、子供が自身のデータから身体の状態変化を客観的に捉えられるよう支援する。



第3回

✓ からだを使って遊ぼう② ～からだを感じて遊ぼう～

✓ 活動内容

嗅覚を遮断してお菓子を食べたり、視覚を使わないで迷路を進んだりすることで、普段使わない感覚を研ぎ澄まし、からだの面白さを感じる。



第2回

✓ からだを使って遊ぼう① ～モノを使って遊ぼう～

✓ 活動内容

(移動遊具)

フラフープぐり。指示に従って遊具を操作しながらからだを動かす遊び。慣れてきたら、自由な時間を作り、各自が興味あることをする。

(素材)

新聞紙などの素材の特徴を使って、破く、ちぎる、丸める、滑る、などの動きをする。



第4回

✓ 屋外で活動しよう① ～屋外を感じて遊ぼう～

✓ 活動内容

アイマスクを着用して屋外の様々なモノに触って、その触覚を確認する。感覚を記したビンゴカードを作りあげることができるよう、視覚以外の感覚を研ぎ澄ませる。



(1) 調査研究の概要

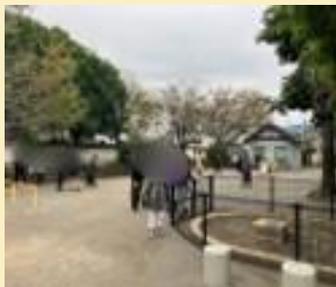
主な活動内容の紹介 第5～8回

第5回

✓ 屋外で活動しよう② ～屋外で探してみよう～

✓ 活動内容

屋外の様々なモノをよく観察し、グループごとに指定されたテーマに見立てられるモノを探すことで、普段と異なる視点でモノを見て、仲間とコミュニケーションをとる。見立てたモノの写真が承認されると徐々に難易度・抽象度の高いテーマが与えられる。



第6回

✓ みんなでモノづくり① ～からだを使って絵を作ろう～

✓ 活動内容

掌や指で絵の具の感触を楽しみながら、みんなで作品を作ることで絵の具の感触を体感し、表現したいものを描いたり、偶然できるものを楽しむ。



第7回

✓ みんなでモノづくり② ～写真に息を吹き込もう～

✓ 活動内容

これまでの活動の中で撮った写真に合うと思われる言葉をグループで考える。その際協力すること、コミュニケーションを取ることや他グループが作った作品を楽しむことを重視する。



第8回

✓ 仲間のからだを感じよう

✓ 活動内容

他者のからだを感じることで、ヒトのからだに興味関心を持つ。安静時や日常動作などの状況下で、心拍数・体温・血圧・唾液アミラーゼ等の客観指標と主観指標を測定する。結果を随時解説し、子供が自身のデータから身体の状態変化を客観的に捉えられるよう支援する。



(2)活動内容から見た事例の分析①

参考タグ

身体理解

屋外環境

伴走支援

グループ編成

感覚統合

主体性

協働

心理的安全性

タイトル

屋外で活動しよう①:屋外を感じて遊ぼう(第4回)

活動内容

「左右協調の感覚統合」ワーク

準備運動として、声に出して数を唱えながら指を順に立てたり折る「指折り数えゲーム」、鼻と反対側の耳を左右の手でつまみ合図に合わせて入れ替える「鼻つまみゲーム」を実施。数唱と手指操作、左右認識や身体の協応性を促す活動を行った。



「触覚探索の表現」ワーク

参加児童生徒に触感を表すオノマトペ9語を記載した用紙を配布。半数が目隠しをして探索役、残り半数が用紙を基に声や手で誘導する支援役となり、指示されたオノマトペをできるだけ多く集める活動を実施した。



全体支援
(環境設定)

屋外(公園内)での遊びとして効率よく取り組めるよう活動を設定し、視覚を遮るアイマスク着用時には動きを丁寧にサポートしながら適切な声掛けを行うことで、視覚以外の感覚、とりわけ触覚を研ぎ澄まし楽しめる環境を整えた。

子供の
特徴・特性

Aさん

- 小学校高学年。人前で話すことや自分の意見を主張することが苦手。

Bさん

- 中学生。他人に気を遣い過ぎて不安になりやすい。

子供の
様子・変化

活動を通して…

- 目隠しで公園内を体験する遊びでは誘導係として積極的に声を掛けながら相手の手を引いて案内していた。同性メンバーでの編成もあって会話が活発に広がり、促さなくても自発的に話しかける様子が見られた。

活動を通して…

- 緊張からスマホを触る様子が見られたが、スタッフの積極的な声掛けにより徐々に活動へ参加しスマホの使用も減少。年下メンバーを気遣い、院生スタッフを的確に誘導する姿や、終了間際には好きな番組や服の話で盛り上がるなど、次第に心を開く様子が見られた。

支援
ポイント

同性の院生スタッフを配置し同性が多い編成としつつ、仲の良い友だちと分ける回も設けて関係性を広げた。気分が下がりやすい場面では興味のある話題で関わり、消極的な際は声掛けにより参加を促した。

院生スタッフが継続的・積極的に声を掛けたことで信頼関係を構築した。本人に合った参加方法を工夫するとともに、同性グループや年下メンバーとの編成により安心して意見表出や交流ができ、面倒見の良さが発揮されるよう支援した。

(2)活動内容から見た事例の分析②

参考タグ

身体理解

環境調整

伴走支援

創造性

感覚配慮

自己表現

協働

心理的安全性

タイトル

みんなでモノづくり①:からだを使って絵を作ろう(第6回)

活動内容

「身体を使った対抗型ひっくり返し」ワーク

スキンシップで互いの距離を縮める狙いで、身体を使った「ひっくり返しゲーム」を実施した。院生スタッフと子供の対抗形式で、一方がうつ伏せの相手方を仰向けにひっくり返そうとする遊び。



「触覚体験を重視したハンドペイント」ワーク

ブルーシートを敷いた床にグループごとに模造紙1枚を配置し、絵の具を使って手ですべて描いた。各グループで、「冬と言えば」、「ハロウィンと言えば」などのテーマを設定して共同制作を行った。



全体支援
(環境設定)

グループごとに担当スタッフがからだの測定結果を確認。模造紙を原則1枚共有して対話や発想の共有を促す環境を整え、絵の具の感触への抵抗など子どもの様子を十分観察しながら安全に配慮した。

子供の
特徴・特性

Cさん

- ・ 小学校高学年。不安が持続しがちで、感情が高ぶると動きが激しくなる。
- ・ 楽しそうなことは進んでやる。友だちが好き。

Dさん

- ・ 小学校高学年。自己表現はかなり苦手。
- ・ 勝負事や争いが嫌い。(ゲームなども内容によっては入りたがらない)

子供の
様子・変化

活動を通して…

- ・ 絵を描くことが好きで、自ら様々な提案を行った。多様な技法を用いながら、高い集中力で熱心に取り組んだ。終始緊張している様子だったが、集団制作でも満足いく作品を完成させ、達成感に満ちた様子だった。

活動を通して…

- ・ 意欲的かつ楽しそうに取り組み、他フリースクール参加者と交流しながら制作を進めた。完成作品についてスタッフに真剣に説明するなど、自らの考えを表現する姿が見られた。

支援
ポイント

Cさん個人の描きたいものを尊重しつつ、グループで一緒に進められるよう配慮した。院生スタッフが積極的に関わり、集団の中でのCさんの「思い」の表出を促し、可能な限りCさんのアイデアが実現するよう支援した。

自己表現が苦手で見知らぬ特性を踏まえ、スタッフが積極的に声を掛けて安心して話せる関係を築いた。グループ活動を通して多様なスタッフや他フリースクール生徒と関わる機会を設けることで、少しずつ自らの気づきや変化を言葉にできるよう支援した。

(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析

事例概要

身体を動かしながら思考力を発揮できる活動を通して、対人関係の広がり**と自己表現の向上**が見られた事例

子供の特徴・特性

- ・ 小学校高学年。人前でうまく話せない。
- ・ 新しい関係や環境に慣れるまでに時間がかかる。
- ・ 自分のやれる範囲で、**着実に積み上げていく**タイプ。



支援場面

「触覚探索の表現」ワーク (第4回)

院生スタッフが**積極的にコミュニケーション**を図り、本人の意見を引き出すとともに、**少人数のグループ編成**とすることで子供の考えを丁寧に汲み取れるよう支援した。

→院生スタッフとの**コミュニケーションが深まり**、初回に見られた緊張も和らいで**自然に会話できる様子**が見られた。

「屋外での見立て探索」ワーク (第5回)

これまで関わりのなかった子供同士を**同一グループに編成**し、新たな相互作用や関係性の広がりが見られるよう環境を設定した。院生スタッフが異なるフリースクールの子供との**会話を促した**。

→異なるフリースクールの子供と**笑ったりツッコミを入れたりする姿**が見られ、**頷くだけでなく積極的に話す**ようになった。

「触覚体験を重視したハンドペイント」ワーク (第6回)

模造紙を用意。原則、**グループで1枚を共有**することで、**コミュニケーションを取りながら絵を作ったり**、仲間が描くものを見ながら発想を共有する。

→声を出す場面が増えた。グループの会話に参加し、**自らデザインや色の組み合わせを提案**した。完成作品について**他グループの担当スタッフに説明**していた。

支援ポイント

- ・ 意見を引き出すための**意図的な問いかけ**をする。
- 「どう思う？」など**具体的な質問を通して**、受け身になりやすい場面でも発言のきっかけをつくる。

- ・ **意図的なグループ編成**による関係性の拡張を図る。
- これまで関わりの少なかった子供同士を**同一グループにすることで、新たな対人関係が生まれる機会**をつくる。

- ・ **課題を明確にした協働活動**の設定。
- 他者と関わる機会のみでなく、**仲間と相談・協働する必然性**を活動内に組み込む。

全回を通じた子供の変化

支援を受けて・・・

- ・ 当初、緊張した様子だったが、回を重ねるごとにスタッフの声掛けに応じてくれた。
- ・ 中盤以降、**異なるフリースクールの子供とも積極的に話す**ようになった。後半、協働活動において**グループヘアィディアを提案**する場面があり、自分の嫌なことを相手に伝え、周囲に対して自分の**境界線を守る**様子が見られた。
- ・ 最終回では、**スキンシップ**にも抵抗を示さなかった。

(4)フリースクール等での実践

実践のための条件

<費用>

- ・「からだの測定」で心身のストレスや睡眠ホルモンを測るには費用が掛かるが、覚醒度測定用のカウンター(約1,000円)や棒(約8,000円)、絵画活動用「ゆびえのぐ」(8色セット約10,000円)で代用可能である。

<支援者に求められるもの>

- ・ **遊びの心身への好影響**を理解し、環境を整備するとともに、子供と楽しみながら個々に働きかけ、**興味・関心**や**自己意識**を高める姿勢を持つ。

<人員>

- ・ 遊びや測定を円滑に行うには、子供一人ひとりに目が届くスタッフ配置(4~5人に1人程度)が望ましく、情報共有や全体把握ができる人数を確保する。

フリースクール等が日常で再現するためのヒントや代替案

- ・ 遊びは「過度な競争がない」「五感・全身を使う」の2つをテーマに計画し、子供の様子に応じて**距離感**や**コミュニケーション**を調整する。
- ・ からだの測定は、主観的な緊張や睡眠状況を可視化し、掲示物や声掛けで**子供が自ら関連を考えられる**ように工夫する。

実践に向けた留意事項

<子供に対する留意事項>

- ・ 子供の拒否や興味・関心の違いを尊重し、無理に強制せず**個々のペース**に合わせて見守りながら、必要に応じて**個別に働き掛ける**ことが重要である。

<環境に対する留意事項>

- ・ 天候に応じて日程調整を行う。人数確認を徹底する。



(5) 調査研究活動の関係者の声

参加児童生徒の声

- ラボの先生や大学生がとても話しやすいので、友達感覚で話せて楽しかった。
- 初めて会う人と話すのが苦手だったが、**知らない人でも話しやすくなった**と感じる。
- ラボを通していろんな新しい人と会話をする機会がとても多かったので、**自分から人に話しかけに行くことが楽**になった。

協力フリースクールスタッフの声

- 最初は活動に踏み込めない子供も、**回数を重ねるごとに、コミュニケーションをしっかりと取れるようになっていて、少ない実施回数の中でも子供の成長**を感じることができた。
- 苦手なものに対して、**克服に近づいた子供もいた**。自分以外の人のために頑張ろうとしたり、葛藤しながら頑張っている子供たちの姿を親御さんにも感じていただけた。
- ラボ活動の時間帯にスタッフから声をかけなくても**自ら今やっている遊びに区切りをつける**ように、**メリハリの付け方・習慣**が自分の生活でも身に付いた。

ラボメンバーの声

- 遊ぶということが楽しいと思ってもらえる、その経験を増やすとともに、**遊びを通して自分が一生付き合う体を知って、感じて考える機会**を提供できるような活動を構築した。
- 最初は緊張が強かったが、だんだん和らぐ様子が見られた。2つのフリースクールのどちらの所属の子供かわからなくなるほど、**子供達が活動を共有**していた。
- 大人があれこれ指示を出して子供を動かさずとも、**子供には育ちたい発達欲求や学びたい発達欲求**がある。**環境を準備すれば、子供は勝手に動き出す**、と活動を通じて感じた。



事例の紹介



明治学院大学ラボ



(1) 調査研究の概要

テーマ

社会力の育成を通して、キャリア意識を向上させる活動
—大学生と関わり、共感能力を高め、自己理解を深める—

検証内容

社会力(社会を作り、運営し、絶えず作り変える力)の育成につながる活動を大学生パートナーとともに実施し、**子どもの「キャリア意識」**がどのように変化するかを検証

対象

小学5年生～中学3年生

実施時期

令和7年10月～12月(8回)

主な実施場所

大学

活動内容

大学生と一緒に、多様な他者と出会い、自分の気持ちと向き合うなど、社会力育成とキャリア意識向上につながる活動を実施。

活動内容

第1回	大学生のことを知ろう①	大学生の発表を聞き、大学生生活の楽しさを知る
第2回	ボッチャ・モルック体験	大学生と一緒にになり、チーム対抗で遊ぶ
第3回	共創ゲーム	大学生と一緒にゲームの話題などを考え、実施する
第4回	他者紹介動画作成	大学生にインタビューをして、紹介動画を作成する
第5回	多様な他者との出会い	多様な他者と触れ合い、他者理解を深める
第6回	アニメ映画からの気持ち探し①	映画の特定のシーンを見ながら、それぞれが感じたことなどを言語化する
第7回	アニメ映画からの気持ち探し②	
第8回	大学生のことを知ろう②	大学生の発表を聞き、専門分野や進路について知る

活動概要

(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第1～4回

第1回

✓ 大学生のことを知ろう①

✓ 活動内容

活動の導入として、大学生が普段の学校生活の中でどのような事をしているのかを知ってもらうための場を設定する。質疑応答の時間も設け、理解がより深まるようにする。



第2回

✓ ボッチャ&モルック体験

✓ 活動内容

ボッチャ&モルックを行い、比較的ハードルの低い身体的活動を取り入れる。活動の中で大学生とのコミュニケーションを促進する。



第3回

✓ 共創ゲーム

✓ 活動内容

子供と大学生と一緒にゲームを考えて活動する。ゲームを創り遊ぶ中で生まれるコミュニケーションを通して、相互理解を深める。



第4回

✓ 他者紹介動画作り

✓ 活動内容

子供が撮影しながら大学生にインタビューし、インタビュー動画を使って自己紹介動画を作成する。撮影や不明点を大学生に聞くことを通して、他者への関心を高める。



(1) 調査研究の概要

主な活動内容の紹介 第5～8回

第5回

✓ 多様な他者との出会い

✓ 活動内容

大学生以外の多様な他者（赤ちゃん、障がい者、外国人、高齢者）と交流し、他者への関心をより広い形で広げていく。



第6回

✓ ジブリ映画からの気持ち探し①

✓ 活動内容

アニメ作品の一場面を見ながら、登場人物のセリフに注目し、主人公の気持ちを考える。他者への関心、自己理解、「はたらくこと」を考え、キャリア意識を高める。



第7回

✓ ジブリ映画からの気持ち探し②

✓ 活動内容

第6回の活動の続きとして、同じアニメ作品の別場面を見ながら、同様のテーマで考える。最後に、互いが感じたことなどをグループで共有する。



第8回

✓ 大学生のことを知ろう②

✓ 活動内容

第1回の形式を踏襲しつつ、より大学生の専門分野や就職先といった話に焦点を置いて実施する。子供が自分の将来を考えるきっかけとする。



(2)活動内容から見た事例の分析①

参考タグ

環境構成

身体的活動

伴走支援

グループ活動

協働

心理的安全性

タイトル

ボッチャ&モルック体験(第2回)

活動内容

- ボッチャ・モルックといった**身体的活動**を取り入れながら、子供と大学生のコミュニケーションを促進し、**互いの距離を縮める**ことを目的とした。
- 運動が苦手な**子供たちでも馴染みやすく、また怪我の危険性も低い**ボッチャ・モルックを採用することにより参加のハードルを下げた。



全体支援
(環境設定)

広い活動スペースの確保できる場所を使用し、熱中症の危険などもないよう、**冷暖房完備の室内**にて実施した。活動中に疲れてしまったり、気持ち的に休みたい場合に**1人で落ち着けるよう**、壁際に椅子をいくつか設置した。子供たちと学生がそれぞれ1対1のペアとなり、全体では4つのグループに分かれて、**チーム対抗戦の形式**を取ることにより、ゲーム形式で楽しめる環境を整えた。

子供の
特徴・特性

Aさん

- 中学生。穏やかで落ち着きがある。
- 物事に対して**やや受け身な一面**があり、主体的に動くのが苦手。
- 真面目な半面、**やや人に対して気を遣い過ぎてしまう**一面もある。

活動を通して…

- あまりスポーツは得意ではないということだったが、ボッチャが比較的ライトなゲームだったこともあり、**積極的に楽しむ様子**があった。本人からは**チーム全員で盛り上がる**ことができたので、全活動を通して一番楽しく行うことができたという感想もあった。

本人のテンポに合わせながら、2人だと気を遣ってしまう一面があるので、むしろ**3人くらいの複数人で行動すること**によって、本人も素を出して話してくれるように見られた。

子供の
様子・変化

支援
ポイント

Bさん

- 小学校高学年。高い集中力を持てるタイプで、ゲームが好き。
- 1対1のコミュニケーションへの抵抗はないが、一方で**大勢の人との関わりに苦手意識**がある。

活動を通して…

- グループ対抗で行うゲームのため、複数人と同時に関わり合いながら進めていたが、**ゲーム性**などもあってか、活動終了後に「**楽しかった**」とコメントしていた。
- 活動中の大学生との関りが良かったというコメントもあり、関わり合いが**本人の安心感**につながっていたように見られる。

趣味の話を中心に会話を重ねながら本人が安心して活動できる環境を作ることで、活動中の表情も徐々に柔らかくなり、緊張感もほぐれていた。**共感的・肯定的な関わり**の中で確かな居場所を確保できていたと思われる。

(2)活動内容から見た事例の分析②

参考タグ

環境構成

相互理解の促進

伴走支援

心理的安全性

グループ活動

協働

視点の拡張

タイトル

大学生のことを知ろう② (第8回)

活動内容

- 4人の大学生が**学生時代に経験したこと、自分の専門分野、卒論、就職先等**についてそれぞれ発表してもらう。
- 話を通して、子供自身が**経験したいこと、知りたいと思うこと、将来の夢**を考えてもらう。全て聞き終えた後、グループで感想を共有し合う。
- 子供が**自分の将来について考える**きっかけとする。



全体支援
(環境設定)

会場は周囲の物や人の動きなどに影響されず、活動に集中できるよう、**閉鎖的な空間であるホール**にて実施した。4つのグループに分かれ、大学生と子供たちはそれぞれ1対1のペアとなるような人数構成とし、難しい内容があれば**適宜** **学生がサポートできる体制**とした。また1人でも多くの発表を限られた時間内で聞けるよう、ホールの前後2つのグループに分け、前後同時に発表を行うような形で進めた。

子供の
特徴・特性

Cさん

- 中学生。**フレンドリー**で、誰とでも仲良くなれる。
- 距離感の近さゆえに、人間関係の構築に苦勞することがある。
- 内容の**深い領域での思考に若干の苦手意識**がある。

Dさん

- 中学生。**1つのことに興味を抱くと熱中**するタイプ。
- 繊細な一面**がある。特に周りで誰かが怒られているような場面を見た時、ストレスを抱えてしまう。

子供の
様子・変化

活動を通して…

- 発表者の就職先の話などを受けて「**経験を活かして仕事に就くことが、とても良いことだと思った**」とコメントをしたり、それぞれのチャレンジする姿勢に感化されたのか「**自転車、ロードバイクへチャレンジしてみたい**」といった回答が見られた。また仕事に関する質問をする姿も見られ、**全般的にキャリア意識が向上する様子**がうかがえた。

活動を通して…

- 自身の趣味である山登りの話が大学生から出ていたため、**大学生に対して質問**するなど、興味を示す様子がうかがえた。
- 大学生の話や実際に学内の施設などを見学できたことで、**ネガティブなイメージを膨らませがちな自身の傾向**も踏まえ、とても良い経験になったという振り返りがあった。

支援
ポイント

自己開示を積極的にしてくれるタイプだったこともあり、基本的には **Cさんからの話題に対して興味ある素振りや否定しない態度**を取り、うまく **本人の意欲や関心を引き立てるような話し方**をした。

本人から活動内での他者との関りやサポートがあったことの良さについてコメントがあったことから、本人の興味や関心を大事にしつつ、**大人から積極的にアプローチして距離感を近づける**ことを意識した。

(3) 子供の特徴・特性から見た事例の分析

事例概要

1対1の関わりを通して、**対人関係に対する自信と積極性**が見られた事例

子供の特徴・特性

- 中学生。大勢の人と関わり話すことが苦手。**人見知りする傾向**がある。
- 日頃、親と離れるケースが少なく、親がいない状況下の中での**行動に対して不安に思う傾向**がある。



支援場面

他者紹介動画を作成するワーク(第4回)

- 2人でペアになり、1人が撮影、1人が話者になって紹介動画を作成する。その後編集アプリを使いながら、動画構成などをペアで相談しつつ、他者紹介動画を作成する。

→大勢との関わり合いが苦手な分、1対1でコミュニケーションを取りながら進めた。
→「編集が思ったより簡単で、楽しくできた」と活動を楽しんだコメントがあった。

多様な他者と関わり合うワーク(第5回)

- 他者への関心を広げるため、赤ちゃん、障がい者、外国人、高齢者をゲストに招いて、4つのグループに分かれ、多様な他者と交流。
- 各グループではゲームなどを実施し、活動に入りやすい雰囲気を作った。

→「いろんな年齢層、他者と関わったことが良かった」と言ったコメントがあり、**人見知りや関わることへの苦手意識**が見られなかった。

支援ポイント

- 無理なく**1対1から共同作業**を行うことによって、大勢との関わり合いが苦手でも、活動できるよう環境を設定する。
- あまり気を張らずに活動できる状況を作ることにより、**活動自体への没入感を高める**ことに繋がる。

- 本人の緊張感がほぐれてきた段階で、より**他者との交流機会が持てるような場**をカジュアルに設定する。
- 安心感のある環境下**で関わりを持てることにより、**本人が自信をつかむきっかけ**にもなる。

支援を受けて・・・

- 当初と比べて積極的に話を広げてくれたり、ペアとなった大学生からの話題に対して**自分の考えを話して**くれたりするようになった。
- 全活動を通して「コミュニケーション力が付いた」といったコメントもあり、本人の中でも他者との関わりに対して、**自信がついた様子**が見られた。

全回を通じた子供の変化

活動内容や環境等、より詳細な内容を確認されたい場合は附属資料もご参照ください。

(4)フリースクール等での実践

実践のための条件

<費用>

- ボッチャ・モルック:1泊2日で数千円でレンタル可能。
- iPad mini:2泊3日で1台3千円程度でレンタル可能。
- 多様な他者への謝金:ボランティアで代替可能。

<支援者に求められるもの>

- ボランティアスタッフは子供への支援に関わる場合、不登校の子どもに対して「**不登校**」という背景だけに注目しないこと。

<人員>

- 子どもの人数と同数のサポーター + 全体の進行役1名
- 子どもと大学生がペアになり伴走(大学生ボランティアを推奨)

フリースクール等が日常で再現するためのヒントや代替案

- 特別な構成のものではないので、フリースクールでもすぐに実践することができる。具体的な手順等は、実施報告書第2章を参照。
- 費用面はレンタルやボランティアにより、少額で抑えることが可能。近隣の大学などに派遣を依頼することで学生生活や将来についての話を聞くことが可能である。

実践に向けた留意事項

<子供に対する留意事項>

- 子どもと大学生が**1対1でたくさん話す**ことができる環境(子どもに発言を強要せず待つ姿勢)。将来を考える上で年上の伴走者が必要。

<環境に対する留意事項>

- 子供にとって**安心できる空間**で活動する。(子どもが活動を嫌がったら、強要しない)活動をしなくても良い、退避スペースの設置も必要。



(5) 調査研究活動の関係者の声

参加児童生徒の声

- 活動で行ったゲームの中で、成功した際に大学生とグータッチを交わすことができ、楽しい思い出として印象に残った。
- 以前は人前で話すことに苦手意識があったが、活動前と比較すると**苦手意識が少し薄れた**。
- 活動を通して、**以前より自分の考えを言葉で表すことがスムーズ**になった。

協力フリースクールスタッフの声

- これまで周囲の人と話すことが難しかった子供たちが、活動の中で年上の大学生と関わる機会を持てたことは、**今後の成長に向けて大きなきっかけ**になった。
- 自己表現に消極的な子供たちも、**他者の発表には自ら質問する姿**が見られたことから、**フリースクールの活動にも同様の工夫が有効**に働くのではないかと感じた。
- 毎回異なる活動を行うプログラムであったからこそ、次の活動を楽しみにする様子が子供たちから見られ、**全体として明るい話題**が増えた。

ラボメンバーの声

- 毎回の子供たちからのアンケートでは、活動を共にした大学生から話しかけてもらったことや、ヒント・アドバイスをもらったことが嬉しかったという声が多く挙がっていた。
- 活動を共にした大学生が**居心地の良い空間づくり**をしていた。そのような空間を作ることが、安心して子供たち自身が**興味関心を広げ、深めるために重要**だと感じた。
- 日頃のフリースクールでの活動でも、**遊び方を少し変えたりアイデアを加える**ことで、より多様な活動が展開できるのではないかと感じた。

参加ラボ

- ・ 慶應義塾大学
- ・ 帝京大学
- ・ 東京家政大学
- ・ 日本体育大学
- ・ 明治学院大学

事業プロモーター

- ・ アデコ株式会社

協力フリースクール

- ・ アイディア高等学院中等部
- ・ 咲くラボ
- ・ 星槎ジュニアスクールPAL立川
- ・ 東京未来大学みらいフリースクール
- ・ ならはらの森なかの学舎
- ・ PA.Lab
- ・ フリースクールイフラボ
- ・ フリースクール滝野川高等学院
- ・ 結の学び舎いちえ
- ・ YUME School町田校



学校外の子供の多様な学びに関する調査研究事業

編集・発行：東京都子供政策連携室企画調整部

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03(5388)3817

E-mail: S1110301@section.metro.tokyo.jp



※本事業は東京都より委託を受け、アデコ株式会社が運営しています。